

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成26年10月発行

第129号

発行所

和歌山県看護協会

〒641-0036

和歌山市西浜1014-27

TEL:073-446-0605

FAX:073-446-0899

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

古川 紀子



写真撮影：広報委員

CONTENTS

- 地区支部だより 2～3
- ふれあい看護体験 4～5
- 訪問看護ステーションだより 5
- 保健師のコーナー 6
- 助産師のコーナー 6
- 看護師のコーナー 6
- 専門認定看護師のコーナー(トピックス2014) ... 7
- 地域連携のコーナー 7
- 医療安全数珠つなぎ 8
- 私の〇〇 8
- リレーエッセイ 友達の輪 8
- My School 9
- ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加して... 9
- まちの保健室・看護のお仕事相談 10
- プレゼント 10
- 和歌山県看護協会の動き 11
- 平成26年度第1回施設会員代表者会 11
- 新人看護職員に対する禁煙指導 11
- 実習指導者講習会を終えて 12
- 知って得する看護協会だより 12

和歌山県看護協会 会員数

平成26年10月10日現在

会員総数	5,442名
名誉会員	1名
保健師	127名
助産師	195名
看護師	4,901名
准看護師	218名

地区支部

伊都地区支部

支部長 岩崎 留美

伊都地区支部では、平成 26 年度 6 月 28 日（土）に研修会を開催しました。

研修会は「針刺し予防と対策」というテーマで、公立那賀病院感染管理認定看護師の永崎昌枝先生をはじめとして伊都地区・橋本地区感染管理ネットワーク研究会の感染管理認定看護師方に協賛して頂きました。職業感染対策・針刺しの状況・血液・体液暴露防止対策の実際をわかりやすく講義していただきました。その後は、グループワーク形式で自分達の現場での感染対策について議論し、感染管理認定看護師にアドバイザーとして参加していただき、とても貴重な意見や参考となる他施設の情報交換もでき、大変勉強になりました。今後は、出前講座や老人看護月間行事を予定しています。



那賀地区支部

支部長 大久保 まさ子

平成 26 年度 6 月 21 日、那賀地区支部集会及び研修会が開催されました。皮膚・排泄ケア認定看護師による「褥瘡治療における看護師に必要な知識」について、看護師・介護職員 88 名の参加がありました。参加者からは、実践に活かす知識、技術の習得を目的とした研修の希望が多かったです。10 月にも、リンパ浮腫の対応等を計画しています。今後も、会員のニーズに近づける企画を検討していきたいと考えています。



和歌山地区支部

支部長 岡室 優

平成 26 年度「まちの保健室」は 5 月 11 日（土曜日）に開催致しました。集会および研修会は 6 月 7 日（土曜日）、和歌山県立医科大学附属病院で開催しました。研修会のテーマは、「高次脳機能障害を学ぼう」で 2 名の脳卒中リハビリテーション看護の認定看護師を講師に迎え、お話をいただきました。現在は、9 月 13 日（土曜日）の秋季「まちの保健室」の開催のための準備をしています。また、第 2 回目の研修会の準備も進めています。



海南・海草地区支部

支部長 宮井 裕見子

平成 26 年度地区支部総会及び第 1 回研修会を 7 月 12 日（土）に開催しました。

研修会は、紀の川市のさかい耳鼻咽喉科の酒井章博先生に「嚥下障害の評価と訓練」と題して、講演していただきました。

嚥下機能評価のための検査や、在宅の嚥下障害者への取組などの紹介があり、基礎疾患の知識と多職種間の連携の必要性を再認識しました。

10 月 19 日に老人看護月間行事として海南市健康まつりに参加、12 月に第 2 回研修会を予定しています。



だより

有田地区支部

支部長 古川 さゆ

7月5日に平成26年度第1回研修会を、こころの医療センターで開催しました。

研修内容は、慢性呼吸器疾患看護認定看護師白石菜保子先生に「呼吸器ケア」のご講演をいただきました。

肺胞音について、聴診の位置について、また気管支の位置を知る「気管支体操」を全員で行うなど、盛りたくさんの内容をわかりやすく講義していただきました。



日高地区支部

支部長 東 るみ子

7月19日に社会医療法人黎明会 健康増進施設で第1回研修会を開催しました。

テーマは、「褥瘡予防ポジショニング」と題し、社会医療法人黎明会北出病院 皮膚・排泄ケア認定看護師の西由香里先生に講演をしていただきました。ポジショニングの基本から、実践方法まで具体的に講義していただき、「明日からでも即実践出来る」と好評でした。

次の研修会は、1月に認知症について予定しています。



田辺地区支部

支部長 下門 すみえ

7月5日に支部総会および認知症看護認定看護師井上淳子氏による「認知症患者へのケア研修」を開催しました。専門的知識から患者への対応のノウハウまでを学び、高齢患者が増加する中で具体的な対応がわかり大変参考になったという感想が寄せられました。

9月には出前研修としてフィジカル研修を予定しています。今後は、会員の研修ニーズの把握に努め、地域の看護職のスキルアップに繋がりたいと考えています。積極的な研修参加をお願いします。



新宮・串本地区支部

支部長 杉山 文栄

平成26年度第1回研修会を7月5日(土)に「人材育成とマネジメント」(講師：和歌山赤十字看護専門学校 教務主任 松尾文美先生)というテーマで開催しました。

会員からの看護管理に関する研修の希望が多く、今年度実施することができました。講師の実体験を踏まえた講義は解りやすく、参加者から「元気をもらった」「悩みが解消された」などの意見がありました。今後も会員の期待する研修を企画する予定です。



和歌山労災病院

ふれあい

参加者の感想

那賀高等学校 松場 裕紀

ふれあい看護体験をさせていただいて感じた事は、患者さんとのコミュニケーションや看護の大変さがすごくよくわかりました。

患者さんは、自分達があたりまえに出来ることができない、その出来ないことに手をさしのべ助けてあげることの大切さを身を通して実感でき、ずっと病院にいて話相手も大事なんだとあらためて感じました。

頭を洗う体験をさせていただきましたが、人の頭を洗うこと自体が初めてで、力の強さとかなかなか難しかったけど、「気持ちよかったわー」って一言いってもらえるだけで、すごくうれしかったです。

僕は、正直、病院内がどのようになっているかなんて知りませんでした。しかし、今回の体験で、色々案内してもらいすごくいい経験になりました。

人に感謝されるような、人のためになる仕事に就きたいと考えていて、看護師は本当にあてはまっている。しかし、その分仕事は大変だし、辛いだろうと思う、間違えたじゃ済まないようなこともあるけれど、この仕事はやりがいもあり、人とふれあえるいい仕事だと思うのでがんばりたいと思います。

施設側の感想

体験者には、看護職は大変だがやりがいがあり素晴らしい仕事だと感じていただくことが出来ました。また、体験者を迎えることで患者自身の新たな一面（意欲）を引き出してもらえたことに驚きと感謝の1日でした。

田中 眞美

和歌山つくし医療福祉センター

参加者の感想

きのくに星雲高等学校 上野山 瑞季

一日看護体験をして、看護師さんはどんな時でも笑顔で話しかけている姿を見て「素敵だな。私もこんな看護師さんになりたい。」と思いました。また、緊張していた私に優しく話しかけてくれてうれしかったです。

初めは、和歌山つくし医療福祉センターのことをあまり知らなくて不安でした。ご飯を食べさせてあげたり、ドライヤーをかけてあげたりしました。また、この機械は、こんなに使うんだと、ここに来て初めて見るような物ばかりで看護師さんの仕事も大変なんだと改めて思いました。患者さんが食べる食事はお茶のゼリーや患者さんが食べやすいように、作られているんだと思いました。看護師さんは、患者さんのことを一番考えていて学ぶことが多かったです。

施設側の感想

はじめての体験で緊張した様子でしたが、コミュニケーションを取ろうと笑顔で頑張ってくれました。今回の体験をもとに「看護師になりたい」という思いがさらに強くなったようで、私たちもうれしく思っています。

並松 都紀子



和歌山ろうさい病院



和歌山つくし医療福祉センター

白浜はまゆう病院

参加者の感想

田辺高等学校 白川 莉央

私の看護師さんのイメージは厳しくてとてもこわいイメージを持っていましたが、どの看護師さんもとても優しく、緊張はしましたが楽しく学ぶことができました。患者さんと話す時はとても優しい口調で、家族のように距離が近く、とてもいいなと思いました。患者さんに服を着せたり、シーツを交換したりしていると簡単そうにみえましたが、実際にやってみると難しく患者さんにも迷惑をかけたと思います。私が思っていた以上に看護師さんは患者さんに気を配り、小さな異変にも気づけるように細かいところまでチェックしていました。

私は看護職が建築系か迷っていましたが、今回の看護体験に参加したことで看護の道に進みたいと思いました。看護師さんの大変な面ばかりを考えていましたが、看護の道に進みたいと思わせてくれる体験ができてよかったです。白衣を着られたことも嬉しかったです。助産師になって皆さんのように活躍したいです。

施設側の感想

初めは、緊張した様子でしたが、実際に患者さんと接する中で、徐々に笑顔がみられるようになり良かったと思います。進路に悩んでいる学生さんもいたので、今回の体験を通して看護師の仕事のイメージする機会となれば嬉しいです。

西 美紀

看護体験 海南医療センター

施設側の感想

「看護師さんの接し方・優しさが印象的だった。」

「手術室はドラマより暖かいイメージで、安心して手術を受けられると思った」と感想。

私たちが高校生のコメントから、「看護は素晴らしい仕事だ!」と、教えられました。

井本 恵子

和歌山県立医科大学附属病院



施設側の感想

見学や体験を通して、看護のよさや大変さを感じられたようで「迷っていたけれど看護師・助産師への思いが強くなった」など感想を話してくれました。「参加できてよかった!」と言って終わられたことがなによりでした。

芝瀧 ひろみ

参加者の感想

星林高等学校 小川 実沙

今日は1日体験をさせてもらい、看護の仕事について深く知ることができました。普段入ることのできない手術室やスタッフステーションは、ドラマなどで見る印象が強かったのですが、実際見てみると違う印象をうけました。

患者さんの体をふかせてもらった時に、看護師さんが優しく「大丈夫ですか?」「痛くないですか?」と笑顔で声をかけていたのが印象に残りました。

私も実際に体験させてもらったのですが、思っていたより体をふくということが難しいことが分かりました。

そして、体験させてもらった後、患者さんに「ありがとう。」という言葉をかけてもらったことが一番うれしかったです。

また、車いすやストレッチャーにのせてもらいました。初めての体験だったので車いすに座った時の目線の低さや、ストレッチャーで運ばれる時の気持ちを考えることができ、患者さんの気持ちになって体験することができました。

他にも血圧を測ったり、MRIの部屋を見たり、胃カメラの道具を見たりして、とても貴重な体験ができました。

短い時間でしたが、とても濃い1日を過ごすことができました。勉強をがんばって、良い看護師さんになれるようにがんばりたいと思います。

和歌山県立医科大学附属病院

参加者の感想

向陽高等学校 城内 美麗

今日1日、看護師さんの仕事を体験させていただいて、思っていたよりもやりがいがあって、大切な仕事なんだと感じました。患者さんが入院生活の中で最も近くで関わっているのが看護師さんであるだろうし、看護師さんの接し方で精神的な面でもケアができるんだあって体験を通じてわかりました。

仕事の量も内容も大変そうと決して楽な仕事ではないけれど、それ以上に患者さんから感謝の言葉をかけてもらっているのを見ると、得るものがあるんだと感じ、ステキな仕事だと思いました。

私は人と関わるのが好きなので、患者さんができないことをお手伝いできるというのは、すごく嬉しいというか、楽しかったです。それと同時に、患者さんの病状がよくなれば嬉しいけど、悪くなったとき、精神的につらいのかなと思って、そういう面ではキツイ仕事なのかなとも感じました。

院内の見学では、緊急の治療室やドクターヘリなど普段近くで見られない所がたくさん見学できたので貴重な体験ができてよかったです。

訪問看護ステーションだより

訪問看護ステーション コスモス

訪問看護ステーションコスモスは、平成7年に開設され今年で20年目を迎えます。現在スタッフは、看護師8名、理学療法士1名、看護助手1名、事務員1名です。利用者数は、毎月80～90名ほどで、高齢者を中心に神経難病、障害者、終末期、医療管理の必要な方まで、24時間体制で訪問させていただいています。

4月に所長が交代し、心機一転新たなコスモスとして歩み出しています。

勤続年数の長いスタッフが多く、看護師と利用者という絆をこえたよい関係を続けていると思います。

先日、亡くなった患者さんの家族から「お供えてくれたお花が今日までがんばってくれた、細やかな心遣いありがとう」とメールをいただき、私たちもとても感激しました。これからも、一人一人の利用者さんとの出会いを大切に、それぞれの家庭の価値観を尊重しながら利用者・家族の希望に出来るだけ添えるような看護を提供できるよう、スタッフ全員で取り組んでまいりたいと思います。



保健師のコーナー

保健師職能委員 山縣 由紀

私は、保健師職能委員として2年目になりました。

私が職能委員になった平成25年度は、「地域における保健師の保健活動に関する指針」が改訂されました。平成25年度保健師職能集会でも、保健師活動の本質と活動体制・手法を理解し、今後、効果的な保健師活動を展開するため、日本看護協会常任理事中板育美先生にご講演していただきました。日頃は、担当業務関係の研修への参加が中心になりますが、保健師職能集会では、保健師活動の本質的な研修を受けることができ、日頃の保健師活動を振り返る機会となりました。私は、日々の業務に追われ、「地域がみえていない」「地区診断に基づくPDCAサイクルができていない」状況にな

っていますが、平成25年度は、県主催の「保健活動・事業評価研修会」にも参加し、地域診断、PDCAサイクル、評価等を学ぶ機会もありました。

業務分担制になってからは、「保健師同士で話し合う場」も減少していますが、保健師活動をするためには「保健師同士の共有の場」が必要だと痛感しています。

地域には様々な職種が活動するようになりましたが、その中で、「保健師とは」を考えながら、保健師活動を行ってみたいと思います。今年度も、事例検討会をとりいれた研修会や交流会を開催しますので、皆様方と一緒に学びたいと思います。

助産師のコーナー

助産師職能委員 宮本 靖代



助産師職能委員長の任につき、2年目に入りました。昨年度は委員会活動を通して、委員のメンバーや会員の皆様の支えのありがたさと、職能委員長としての責務の重さを感じながら学ぶ事ばかりの1年間でした。今年度も新委員を含め7名で、日本看護協会助産師職能の方針に

添い活動してまいります。日本看護協会では、助産師による安全で安心な出産環境整備の推進の一環として、助産実践能力強化とその体制整備を目的に、助産実践習熟段階（クリニカルラダー）の普及を進めています。そしてラダーⅢ認証の最初の申請が平成27年8月に予定されています。昨年に引き続き、皆様への情報伝達に努めてまいります。会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

《平成26年度・活動目標》

助産師の積極的な活動による安全で安心な妊娠・出産・育児環境の整備

1. 助産師のキャリアパス / 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）の普及と啓発
2. 助産実践能力向上のために、キャリアアップ研修を開催する
3. 助産師職能として、思春期教育出前事業を行い、地域に根ざした活動を行う

助産師職能集会・3職能合同研修会は8月にプラザホープにて開催いたしました。今後、新人助産師研修を3回（新人以外の助産師一般でも募集）、近畿地区合同研修、インターネット研修、助産師交流会を予定しています。今年度はラダーⅢ申請に添った研修内容を取り入れていますので、皆様のご参加をお待ちしています。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 原 朱美



看護師職能委員会Ⅰの活動に参加させて頂き2年目になります。

看護師職能委員って何なのか、という知識すらなかった私は、看護協会ホームページや看護協会ニュース、黒潮を読むことから始めました。そして看護業界が今、転換期を迎えていることを知りました。

2025年問題を目前にし、看護職が社会に何を期待されているのか、病院で働く看護師の役割は何なのかを考え、活動する機会を頂いたことに感謝しています。

私は急性期病院以外で働いたことがないのですが、他施設

の方との交流は大変勉強になることが多く、楽しく活動させて頂いております。活動を始めてから、実際の職場でも以前に比べ、早期に在宅に帰ることを目指し、より患者さんの生活のことを考え、看護するようになったと感じています。

看護師職能委員会Ⅰでは、社会のニーズと病院で働く看護師の現状や問題について、ディスカッションしながら、できるだけ多くの看護職が興味をもてるような研修会を企画しています。

今後もさらに充実した研修会が開催できるよう努力していきますので一人でも多くの方の参加をお待ちしています。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 石谷 朋子



今年度より看護師職能委員会Ⅱに参加させて頂いています。委員会への参加が初めてで、不安を持ちながらの参加でした。委員会を通して、これまでの活動内容を把握し、委員会が目指す役割について知ることができました。また、委員会の方から介護・福祉施設等の現状等の意見交換をさせてもらう機会となり、大変勉強になっています。

看護師職能委員会Ⅱは、「介護・福祉施設、訪問看護の看護師ならびに介護士の質の向上」に向けた活動を行っています。2025年問題と言われ、高齢者を支える看護の役割は大きく、質の向上も求められています。わたしは、大学で教員

として高齢者看護学を主に担当し、実習の指導を行うこともあります。治療中の患者さんの多くは、「住み慣れた街で、自宅で最期まで安心して住み続けたい」という気持ちを持っています。退院までの関わりに加え、高齢者の退院後のサポートの必要性を強く感じています。

委員会を通して、看護師や多職種が働く現場での役割を認識し、各々のレベルアップに加え、高齢者のニーズに合わせて協働していくこと、地域と連携していくことについて考える機会にしていきたいです。

看護師職能委員会Ⅱの一員として、高齢者の暮らしと生活の場を守ることを念頭に置き、充実した活動が行えるよう頑張りたいと思います。

「救急看護領域の活動や最新情報等」

和歌山労災病院 救急看護認定看護師

早田 修平

当院は、和歌山市北部・大阪府南部を医療圏とする2次救急医療施設です。24時間365日体制で患者の受け入れを行っています。

私は、救急看護認定看護師の資格を取得して2年が経ちました。主な活動としては、緊急度・重症度が高い患者への専門的な看護実践、救急看護領域の教育、JTAS (Japan Triage and Acuity Scale) を活用した院内トリアージシステムの運用、救急室ラダーの運用、マニュアル改訂などがあります。また、認定としての活動日(1回/週)に院内ラウンドを行っています。院内ラウンドは、他部署の急変対応を分析・評価することや、重症患者のフィジカルアセスメントの視点を指導すること、救急カートの点検や整備状況を確認すること、認定看護師として認知されることなどを目的としています。

院内の急変事例の分析をしていく中で、気道閉塞による急変が多いことがわかりました。また、救急カートの物品が不足していることもわかりました。そこ

で、院内の救急カートを統一するために、救急医療対策委員会で議題にあげ動き始めています。また、病棟ナースは救命処置の実践に大きな不安を抱えていることもわかりました。そのため、BLS (Basic Life Support) や ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support) ・フィジカルアセスメント研修や急変シミュレーションを行っています。院内ラウンドによって現場の問題が詳細に見えてきます。正確にニーズを把握し、それに対してアクションを起こすことで効果的な介入ができると実感しています。

私の使命は、院内全体の救急看護の質の向上です。支援できることは、たくさんあります。現場での情報収集と分析・評価を繰り返し、効果的な介入ができる認定看護師を目指したいと思います。



地域連携のコーナー

地域医療連携室は病院の顔です！

新宮市立医療センター

栗原 久美子



当院は、和歌山県と三重県の県境に位置し、地域医療支援病院・災害拠点病院という役割を担う地域の基幹病院です。

「地域医療連携室」は平成15年4月に開設し、現在、医師(兼任)1名、MSW2名、事務職員3名、看護師2名の計8名で、日々業務に奮闘し

ています。

地域医療連携室に配属され2年目を迎えた私ですが、「地域医療連携室は病院の顔」と言われる意味を日々、実感しています。

今、「2025年問題」が話題になる中、当地域ですら3人に1人が高齢者であり、日本の先取りをしている地域であると思っています。そのため、高齢者の尊厳を守り、自立した生活を続けられるよう、出来るだけ住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最

期まで続けられるような体制を整える必要を強く感じています。

平成23年からは、地域の看護師、介護士と顔の見える連携を図るために、「看看介護の会」を発足し、毎回たくさんの方々に出席していただき、それぞれの立場で見識を広げる有意義な会になっています。

また、今年度看護部の目標である「患者の生活につながる看護の提供」を受け、地域医療連携室では、病棟看護師対象に“その人らしさを支える支援”という内容で部署を回り研修を行っています。

私は日頃から、患者・家族が安心して退院や転院ができるように、そして在宅・転院先の医療・介護スタッフが、快く患者・家族を受け入れることができるように「橋渡し」をしたいと考えています。

その役割を実践するために、今後も「病院の顔」の一員としてがんばってまいります！

医療安全

数珠つなぎ

和歌山県立 こころの医療センター

山中 大城



専任リスクマネージャーとして3年目、看護協会の医療安全対策委員会として2年目になります。『インシデントレポートで情報共有し、事故を防止しよう』との啓発活動で、レポート提出数は年々増加し、職員の安全意識の高まりを感じています。

看護協会の委員会活動では、今年度からホーム

ページに『医療安全情報』を新設しています。情報交換・共有の一環として、今後内容を充実させていただきますので、皆様ぜひご活用ください。

次回号に紹介させていただく方は
白浜はまゆう病院 新谷恭子 様です

私の



《私の好きな・・・》

富田病院 中川 聖子



毎日の仕事の中で、患者様に感謝のお礼を言われることがあります。そんな時いつも自分に問いかけます。「私自身最善の看護が出来ていたんだらうか」と。毎日の忙しさの中、もっと気づくことが出来たのではないかと、私の看護は正しいのであろうかと悩み、やめようかと思う事もあります。しかし、仕事をしていると、勝手に体が動き、工作中、患者様や

スタッフと笑っている自分がいることに気づきます。患者様や家族の方からのうれしい言葉を聞くと、この仕事を選んで良かったと心から思います。自分自身を振り返るとやっぱりこの仕事が好きだなあと、再確認し、これからも、看護師の仕事が大好きな自分でありたいと思う。

リレーエッセイ

友達の

輪

Vol.49

医療法人愛晋会中江病院 北山 由美

新卒で就職したのは総合病院の中央手術室だった。学生の頃から優秀とはいいがたい私は、叱咤されてばかりの毎日。4年目、嫁ぐこととなり師長に退職を申し出た。「そうか～、残念ね。使い物になってくると辞めるのね。」

あれ。私でも「使える」と思ってくれていたのか。

退職の日、「いい？落ち着いたら、必ず仕事に戻りなさい。あんたよくがんばった。この4年間を忘れちゃだめよ。」

看護師は向いていない、そう思っていた。結婚を期にこのまま辞めてしまおうと思っていた。

「必ず（看護師に）戻ってきなさい」その言葉が忘れられず、半年間悩んで復職。現在に至っている。

看護師でいればこそ、たくさんの出会いと学びに感謝している。



今回は、独立大学法人和歌山県立医科大学附属病院 中島珠生 さんをご紹介します。



日高看護専門学校は、和歌山県の紀中地域、御坊保健医療圏に住む地域住民の健康の担い手として保健・医療・福祉施設において活躍できる質の高い看護師を育成することを目的として、平成26年4月に開校しました。

設置主体は、御坊市外五ヶ町（美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町）が組織する病院経営事務組合です。

本校は、高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成、専門的知識と技術を用い、社会のニーズに対応した看護を実践できる人材の育成、生涯にわたって自己啓発に努め、看護の発展に貢献できる人材の育成を教育理念としています。

定員は1学年40名で、総定員は120名です。現在は1学年のみですが、学生の内訳は男子学生が12名、年齢は18歳から39歳と幅広く、社会経験者も15名在籍しています。

校舎は、4階建てで学生専用のスペースは広く取り、全体的にゆったりとした環境づくりをしています。また、実習室には、最新の高機能シミュレーターを導入し、臨床に即した学内演習ができるように教育環境の充実を図っています。

講師陣については、御坊・日高地域はもちろん県内



の保健・医療・福祉施設、教育機関からの協力をいただいています。臨地実習については、地域の医療機関である北裏病院、北出病院、日高病院、和歌山病院が学生を受け入れてくれます。また、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、保育所、市町村保健センター等の実習についても地域全体でバックアップしてくれることになっています。まさに地域上げての看護学校となりました。

地域の期待は大きく、責任は重大ですが、学生・教員ともども日々試行錯誤を重ねながら、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。

在校生の



私たちが、日高看護専門学校に入学して半年が経ちました。学校生活にも慣れ、充実した日々を送っています。

学校での勉強も専門的な科目に入り、どんどん難しくなって大変ですが、講義や演習で新たな発見をするたびに、驚きや喜びを感じています。そして、その発見をこれからの実習に生かしていこうと思います。

また、学校行事の企画・運営ではクラス全員が一丸となって行うので、チームの意識が高まりとても楽しい時間です。

私達は1期生なので先輩と呼べる人がいませんが、優しい先生方とめぐまれた環境の下で看護師になる



夢の実現に向けて日々頑張っています。

1期生 奥田 奈都子

ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加して

医療法人 裕紫会 中谷病院 小林 春子

WLB推進ワークショップに今年初めて参加させていただきました。当病院は職員に対してくるみマークを取得するなど働きやすい環境作りに努力してきました。しかし、このたび参加させていただき、インデックス調査の結果から評価の高い項目もありましたが取り組まなければならない課題が多々あり見直しの機会となりました。皆様共にWLB推進ワークショップに参加し、自施設の客観的なデータから看護職が働き続けられる環境を作っていきますか。



まちの保健室・看護のお仕事相談

「まちの保健室」委員長 野上 千晶

今年も、9月8日(月) 県立向陽高校文化祭にて「健康チェック・看護のお仕事相談」を開催いたしました。

初回参加が125名と多く、高校生50名、保護者51名を含む計163名の参加でした。

普段あまり測定することのない骨密度に対する関心が多く、「自分の健康状態を確かめる機会となり、為になりました。」という意見を多数頂きました。

また、「健康チェックは大切であり、今後も気をつけていきたい。」など、個々の健康に対する関心及び意識の向上に繋がったと思います。

「来年もまた来たい。」や「こんなイベントをもっと増やしたらいいと思います。」などの意見も頂き、今後の活動の励みになりました。

協力員の皆様、ご協力本当にありがとうございました。

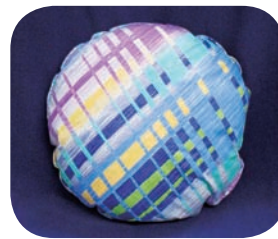


第19回

プレゼント!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、11月25日(火)までにお送りください。
(消印有効・1人1通のみ)
抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先 〒641-0036 和歌山市西浜 1014-27 和歌山県看護協会 「10月号プレゼント」係



「足まくら」
を
2名様に!

どちらか1つ
当たります!

「図書券」
1,000円分を
3名様に!

プレゼント
応募者の
声

- 認定看護師の方の講義は、すぐに実践できる内容で日々の看護に役立っています。
- 皆様の活動報告等を読ませていただき、色々と勉強させていただいています。



心地よい眠りで、あなたの元気を応援します。

東洋羽毛のゴア® 羽毛ふとん

汚れのもとになるものは、ふとんの中に入りません。

寝ているときの汗は、こもりません。

まるでふとんが、呼吸をするように

いつも衛生的で、心地よい温かさを保ちます。

温かいを超えた、至福の寝心地を、

是非お試しください。



TUK
東洋羽毛関西販売株式会社

和歌山営業所
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-1-2F
☎ 0120-32-7766
ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

清潔・きれい・衛生
Bedding Products

和歌山県看護協会の動き

平成26年度第4回理事会

開催日時：平成26年7月30日（水）13：00～16：00

I 確認事項

公益社団法人 和歌山県看護協会定款について

II 協議事項

1. 新看護研修センターについて (承認)
2. 和歌山県ナース章推薦について (承認)

III 報告事項

1. 日本看護協会理事会報告
2. その他日本看護協会主催会議報告
3. 県内関連団体会議参加報告
4. 会員数について
5. その他

平成26年度第1回施設会員代表者会

日高地区理事 東 るみ子

平成26年9月15日（月）和歌山県看護研修センターで、第1回施設会員代表者会を開催いたしました。

午前中は、52名の参加で、和歌山県看護協会長から「日本看護協会・和歌山県看護協会の動向」について講演の後、「働き続けられる職場を目指して」というテーマで、医療法人南労会紀和病院 副院長・看護部長 岩崎留美氏に施設での取り組みについて発表していただき、グループワークが行われました。活発な意見交換が行われ、「職員間のコミュニケーションの大切さ」「教育の充実」「ワークライフバランスの重要性」「人事考課システム導入」など、具体的な目標があげられていました。

午後からは、特別講演として、日本看護協会長 坂本すが氏をお迎えして、「地域包括ケアシステムにお

ける看護の役割」というテーマで、ご講演をいただきました。

参加者は149名で、2025年に向けて、医療・看護を取り巻く社会の変化から、地域包括ケアシステム構築に向けた看護の取り組み、これからの病院看護師の働き方について、ユーモアを交えながらも力強く、パワーをいただける講演でした。

参加者からは、「地域の看看連携の強化の必要性を感じた」「看護師として地域にどのように貢献していくのか考えさせられた」「病院内での役割だけでなく、今後は地域に向けた看護師としての能力を地域でシェアしていかなければならない」「看護の原点を振り返ることができた」「いつもですが元気をいただきました」などの感想が寄せられました。

「新人看護職員に対する禁煙指導」

和歌山労災病院 高田 知那美



皆さん、こんにちは。私は和歌山労災病院の治療就労両立支援センターの禁煙外来で禁煙にチャレンジする方々のカウンセリングを行っている保健師です。

当院では、新採用者に対して社会人として踏み出した4月時に、病院で働き患者の健康を守る者として、ま

ず自分の健康を守ることを目的に保健師による禁煙指導を行っています。

禁煙指導の内容は

1. タバコの三大有害物質
2. 健康への影響
3. 主流煙と副流煙
4. 女性と喫煙
5. 禁煙の効果
6. 禁煙ビジネスマナー
7. 禁煙外来について

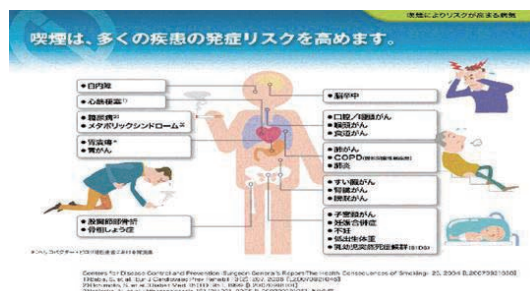
です。

中でも、タバコには約3,000種類、煙からは4,000



種類もの化学物質が含まれ、人体に有害なものは250種類、発がん性の疑われるものは50種類を超えています。またタバコの有害物質は低温の不完全燃焼時により多く発生するため、主流煙より副流煙のほうが多量の有害物質を含み、タバコは自身の健康を脅かすと同時に周囲の人々の健康にも影響を与えていることなどを伝えています。

我々看護職は人々の健康を守る専門職として、心身ともに健康であることが望ましく、今後も「タバコをやめようかな」と考えている看護職の方たちを積極的にサポートしていきたいと思っています。



講習会では実習指導に関する知識・技術を学び、自己の看護観を振り返る良い機会となりました。講習会を終え、未来を担う学生や仲間と看護の素晴らしさ、

楽しさを共有し、共に成長していければ素敵だと感じています。

KANGOSHISHOKUNOUIINKAI

知って得する看護協会だより



第11号

●発行責任者／看護師職能委員長 東 直子 ●編集／看護師職能委員会

あなたのために、できること あなたに、できること

12時間夜勤への取り組み

白浜はまゆう病院 廣井 啓子

当院の勤務体制は、個人の希望を取り入れ3交代（8時間）と2交代（16時間）のシフトを組んでいる。しかし、日勤深夜は、日勤終了後また夜中に出勤することへの負担があり、2交代勤務は、16時間の長時間労働で、休息休憩が取れない時もあり、疲労・ストレスが蓄積され心身共に苦痛を感じるとの意見がありました。

当病棟（整形・内科混合）の特徴として、午後に入院が集中し、手術も外来診察後となり、準夜帯でのOP患者の出棟、帰室となるため、パート看護師の勤務時間終了から業務量が増え超過勤務となっていました。

夜勤・交代制勤務ガイドラインを基に、勤務時間の検討を行い、下記の目的でシミュレーションを実施しました。

【目的】

1. 夜勤勤務を短くすることで、疲労・ストレスの軽減を図る
2. 超過勤務削減（午後からの入院患者、手術患者の対応）
3. パート勤務者の効果的な人財活用
4. 働きやすい勤務時間の模索



【変更前】

A	3交代夜勤（日勤・深夜・準夜）	
	日勤（8:30～17:30）	深夜（0:30～9:30）
		準夜（16:30～1:30）
		Ns2名+補助1名
		Ns3名又はNs2名+補助1名
B	2交代夜勤（日勤・準深）	
	日勤（8:30～17:30）	
		準深（16:30～9:30）
		Ns3名又はNs2名+補助1名

【変更後】

12時間夜勤	
日勤（8:30～18:00）	
	中準（13:00～23:00）
	Ns3名又はNs2名+補助1名
	準深（21:00～10:00）
	Ns2名+補助1名

【結果】

1. 12時間夜勤に変更したことで、深夜勤務の疲労やストレスが軽減し、翌日に疲労感を残すことがなくなった。ほぼ定時に終われることで気持ちに余裕ができた
2. 午後の忙しくなる時間帯に人員を多く配置したことで、入院・手術患者に安心・安全な対応ができ、超過勤務の削減が図れた
3. 午後から引き継ぎの勤務者ができたことで、安心感と記録が書ける時間が確保でき、定時に勤務が終了できるようになった